

平成25年度
学校給食用牛乳びんの導入支援に向けた
モデル事業の概要

平成25年度学校給食用牛乳びんの導入支援に向けたモデル事業

- 検討会で得られた知見を活用しつつ、リユースびんのさらなる普及・促進に向けた方策として、学校給食用牛乳びん(以下学乳びん)の導入を検討する自治体(またはそれを支援する団体)の支援を行うこととした。当支援事業は、学校における環境教育の一環としてリユースの取組を推進するとともに、学乳びんの導入にあたっての課題や成立条件を整理し、リユースシステムの構築に係る情報・経験を広く発信することを目的とする。
- モデル事業の実施に当たって整理・検討された課題点や検討事項、タイムスケジュール等は今後導入を検討する地域において活用されるよう、導入の手引きとして広く発信する。
- 平成25年12月17日(火)から平成26年1月10日(金)まで募集したところ、全国から1件の応募があり、主体性、自立性、発展性・波及性、独自性、関係者との連携といった観点により検討した結果、1件を選定。平成26年1月から実施。現在、二次公募について準備中。

	申請代表者・実施地域	事業概要
1	びん再使用ネットワーク (東京都を中心に実施)	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都内小中学校で学乳びんの導入を希望する自治体への導入支援事業を実施する「学乳びん導入支援プロジェクト」を立ち上げる。メンバーは、自治体・教育関係者、関連事業者(乳業メーカー・流通業者)、市民団体等を想定する。 ・当該プロジェクトでは、複数年にわたる事業の中で、学乳びん導入による効果(環境教育の向上や環境負荷の削減等)とコストを明らかにすることを獲得目標とする。 ・平成25年度のモデル事業では、以下を想定する。 <ul style="list-style-type: none"> ア)1月中旬:「学乳びん導入支援プロジェクト」を立ち上げる。 同プロジェクトで、びん牛乳に関する様々な課題について調査し、整理する。 イ)2月下旬:自治体や教育関係者等への「事業説明会」を開催する。 モデル事業の公募趣旨や支援事業の概要の説明およびびん入り牛乳の試飲等を行う。 ウ)3月上旬:「学乳びん導入支援説明パンフ」を作成する。(説明会には「案」を提示。) 「びん牛乳の美味しさ」「ごみやCO2削減効果」「環境教育効果」「導入校関係者の声」などを保護者向けにコンパクトにまとめた「学乳びん導入支援説明パンフ」を作成する。 エ)3月下旬:びん牛乳の導入課題等を取りまとめ、本年度の「事業報告書」を作成する。